

## 除草時の飛び石事故に注意

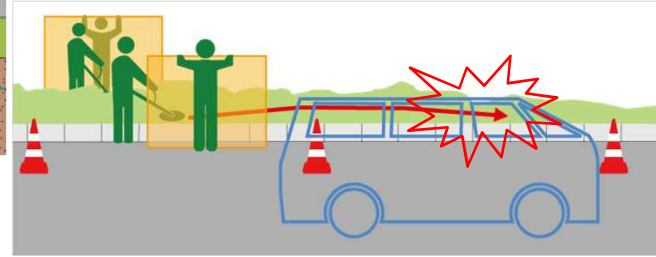
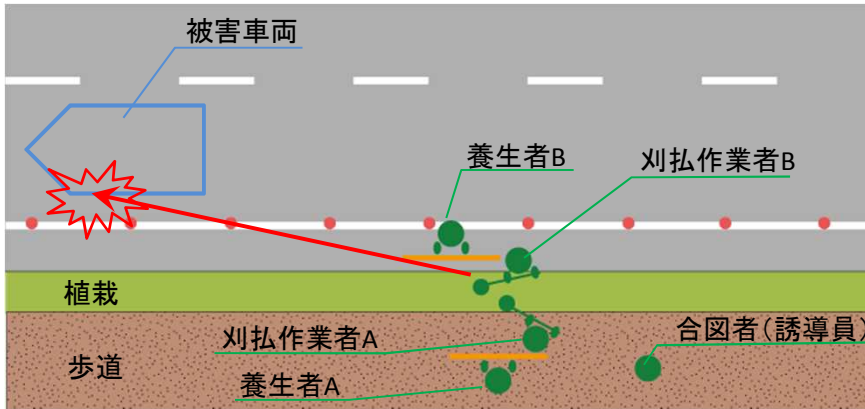
除草時の飛び石事故が発生しています。特に走行車両への飛び石は人命に関わる場合もあるため、事故防止対策を確実に実施しましょう。

### ■飛び石事故事例1

【事故概要】 街路樹維持工事で、作業手順通り植栽帯の除草作業を行っていたが、飛び石により通行車両の助手席側窓ガラスを破損した。

#### 【原因】

- 一般的な大きさの防護ネットでは防護しきれなかった。
- 作業手順どおりの作業をしていたが、結果からみると飛散防止方法に工夫の余地があったと考えられる。

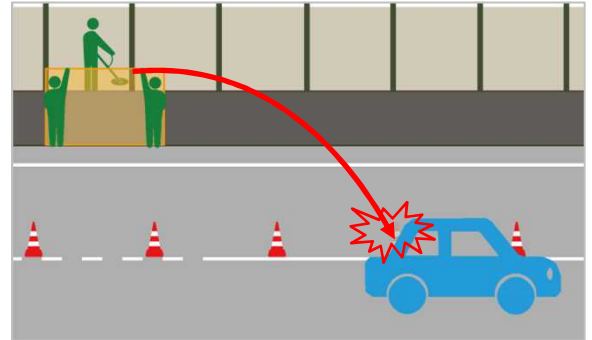
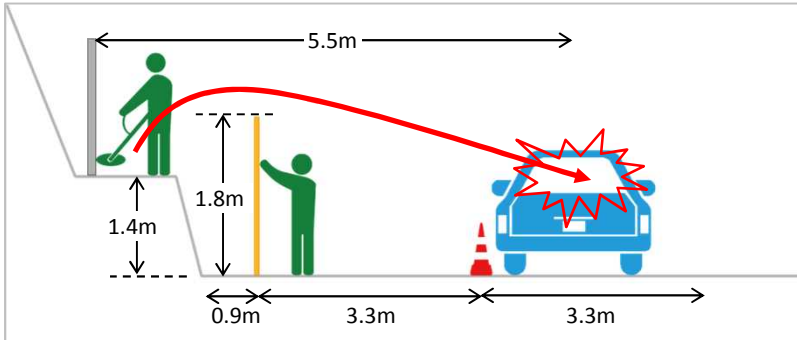


### ■飛び石事故事例2

【事故概要】 落石防護柵の車道側を肩掛け式草刈機にて除草作業をしていた。交通規制は直進車線を1車線規制し、通行車両は右折レーンを通行していた。通行中の車両が赤信号で停止した際、除草によると思われる飛び石が車両リアガラスに当たり損傷した。草刈り中の作業員は飛び石の発生に気付かなかったが、車道にて集草中の作業員がガラスの割れる音を聞いた。

#### 【原因】

- 擁壁上部での除草作業であったため、集草員2名で防護ネットを張った枠を用いた飛び石対策を行っていた。草刈り機の刃は石を噛まない対策(ハサミ式刈刃)がされており、飛び石が発生しづらい順行での作業を行っていたが、何かの拍子で飛び石が防護ネット枠を越え、被害車両に当たったと思われる。
- 使用していた防護ネットは、一般的には十分と言える高さであったが、配置する高さが十分でなかった。



- 作業前の打合せ(刃先の方向、飛び石しやすい方向、進行方向、ネット設置位置)を行いましょう。
- L型防護ネットや広範囲防護ネット、トラック荷台の上への設置など、現場状況に応じて防護ネットを使用しましょう。

L型防護ネット



広範囲防護ネット



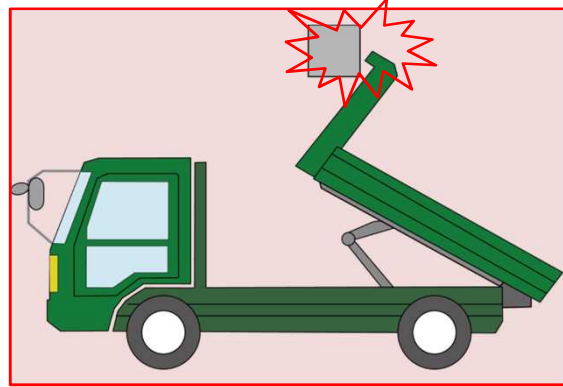
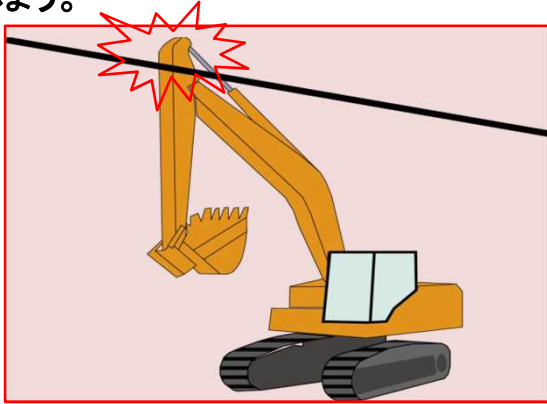
トラック荷台への設置※



※ミラー・窓が破損しないように養生してください

# バックホウのアームやトラックの荷台による 架空線事故・接触事故にご注意を！

工所用道路でバックホウのアームを十分に下げずに移動し、架空線を切断する事故やダンプトラックの荷台を上げたままの走行による架空線の切断や高さ制限ゲートに接触する事故等が複数発生しています。注意喚起や危険箇所・注意箇所の明示を行い、走行前には安全確認を徹底しましょう。



## ■バックホウによる架空線切断事故1

【事故概要】 工事区域内において、施工準備のためバックホウを移動中にアームがNTT架空線に接触し、メッセンジャーワイヤー1本と通信線1本を切断した。

### 【原因】

- 架空線の高さが十分あると思い油断した。
- 切断した架空線は事故の2週間前に移設されたものであり、作業箇所ではなかったため、三角旗による架空線位置を明示していなかった。
- 事前の打合せ時にオペレーターに対して架空線に注意するよう指示していたが、オペレーターの理解が十分かどうかの確認ができていなかった。

## ■バックホウによる架空線切断事故2

【事故概要】 降雨による増水に備えて、高水敷で作業中のバックホウを堤防天端に移動していたところ、堤防天端を横断していた高圧電線3線(6,600V)のうち2線にバックホウのアームが引っかかり切断した。

### 【原因】

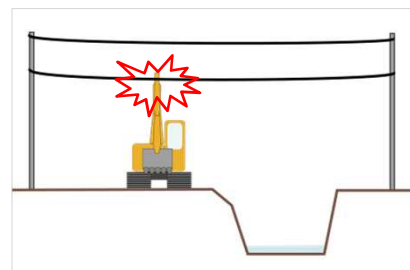
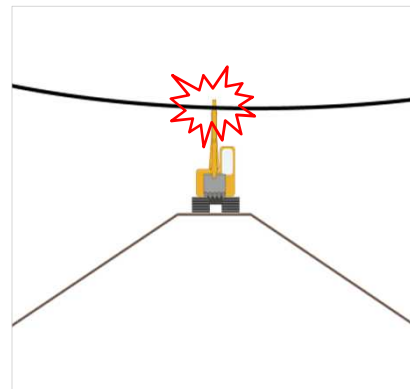
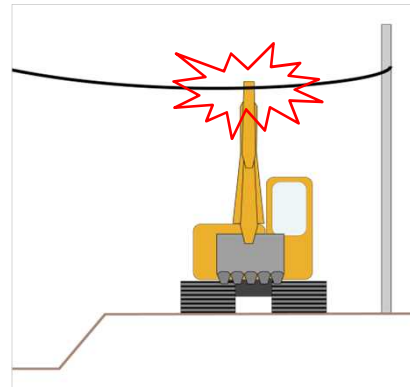
- 雨天時の夕刻に作業中止に伴う待避移動中で、焦りと油断があった
- 架空線の存在は認識していたが、移動中には目に入っていなかった
- 架空線に対する明示や防護対策等の対策が未設置であった。
- 施工計画に重機の移動ルートが明示されていなかった。また、下請けに的確な指示も出来ていなかった。

## ■バックホウによる架空線切断事故3

【事故概要】 工所用道路に敷鉄板を敷設するために施工エリア外からバックホウを移動させた際にアームが電線に接触し、電柱の留め具から電線が外れた。

### 【原因】

- 元請現場代理人が下請主任技術者に架空線の位置を現地で説明し、その主任技術者と運転手が架空線の位置を確認していたにもかかわらず、油断しバックホウを移動させた。
- 架空線に対する明示や防護対策等の対策が未設置であった。



## ★考えられる主な対策

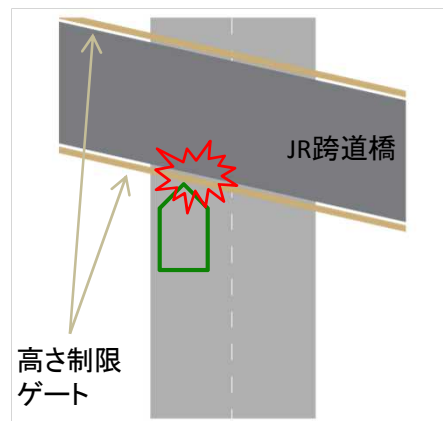
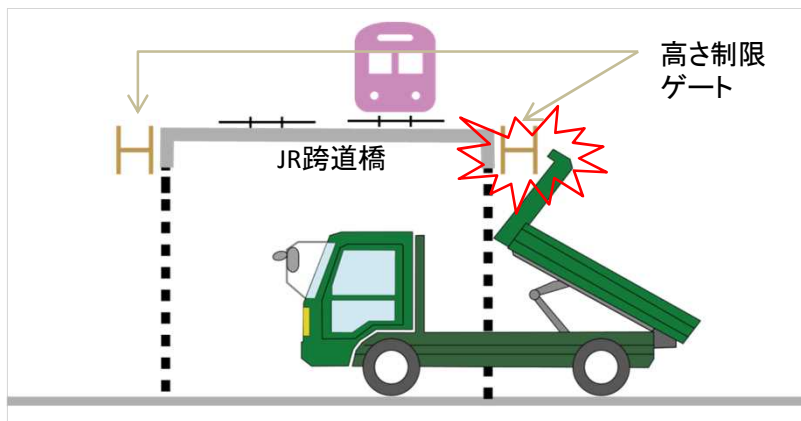
- 工所用道路、進入路等でも架空線の高さ明示のポールやロープ、三角旗、架空線等事故防止対策簡易ゲート等を設置
- アームの上限位置を明示するため、重機通路に高さ明示のポールやロープを設置
- 専任の監視員の配置

## ■ダンプトラックの荷台接触事故1

【事故概要】 ダンプトラック運転手が、土砂仮置き場からでる際に4tダンプトラックの荷台を降ろさず走行し、JR跨道橋(高さ制限4.2m)の高さ制限ゲートに接触し、ダンプトラックが車線上で横転した。

### 【原因】

- 運転手が荷台を降ろしたことを確認しないまま走行した。

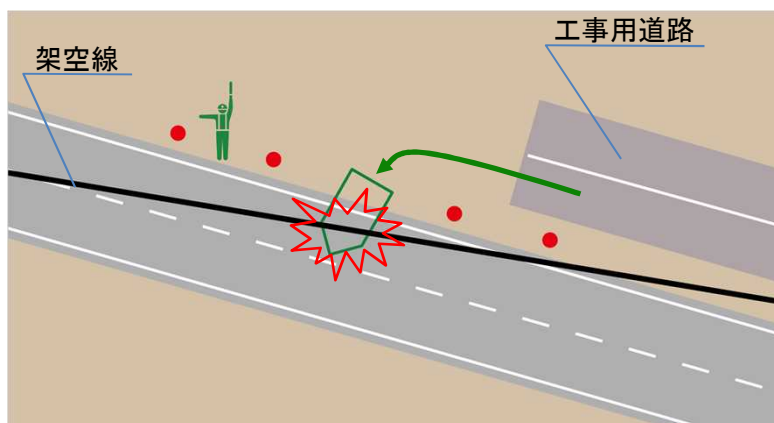
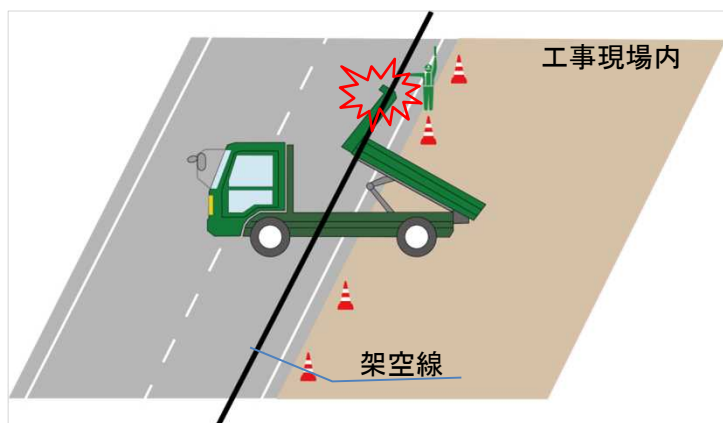


## ■ダンプトラックの荷台接触事故2

【事故概要】 補強土壁裏込め材搬入後、10tダンプトラックの荷台を降ろしていない状態で車道に出ようとして、荷台とNTTの架空線が接触し架空線を損傷させた。

### 【原因】

- ダンプトラック荷台が下がっていると思い込み、ダンプトラックを発進させた。
- 現場出入り口の直上に架空線があるにもかかわらず、注意喚起の看板を設置していなかった。
- 朝礼、KY活動等による日々の教育で架空線への注意喚起が不足していた。
- ダンプアップから搬出までの確認を含む手順が統一されていない。



### ★考えられる主な対策

- 車両・重機の走行前に安全確認を徹底
- 安全確認の注意喚起設備を設置
- 思い込みを排除するよう、必要に応じて確認者を配置



## 年末年始を迎えるにあたって



- 年末時期の大掃除などを契機とした整理整頓を行いましょう。
- 第三者進入防止のためバリケード・看板等の安全設備を充実させましよう。
- 盗難発生の恐れがあるため出入り口の施錠は確実に行いましょう。
- 強風による看板の飛散、積雪地での仮設防護柵等の倒壊などにも留意して、保護や結束の強化を行いましょう。
- 年始の作業再開時には安全確認を徹底しましよう。